

高病原性鳥インフルエンザ

平成30年度の秋以降に向けて今から対策の強化を！

昨シーズン、香川県で発生した高病原性鳥インフルエンザの疫学報告書及びその概要が公表されました。<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/> その一部をご紹介します。

1 発生農場の特徴

- これまで発生が確認されていなかった香川県で確認された。(1県1農場)
- 発生農場は、付近に竹林と雑木林があるなど、小動物の生息に適した環境があり、また、野鳥が飛来するため池が農場敷地中央に存在し、発生鶏舎はそのため池に対し最も近い場所に位置していた。

2 分離ウイルスの特徴

(1) 分離ウイルスの遺伝子学的由来及び感染性等

- 遺伝子解析の結果から、昨年度の冬に欧州で流行した H5N8 亜型と、ユーラシア大陸の野鳥で循環している N6 亜型が再集合したものと推察された。
- 平成29年11月の島根県の死亡野鳥と平成30年1月の東京都の死亡野鳥で検出されたウイルスは、相同性が極めて高かったが、香川県の検出ウイルスとは、明確に区別された。
- 感染が成立した鶏から排せつされるウイルス量は、これまでに国内で分離されたウイルスに比べ、10~100倍程度少ないことが示された。

3 農場への侵入経路

- 当該鶏舎の周囲には、ウイルスが存在していたと考えられ、このような環境下でウイルスの侵入経路として、①ネズミ等の何らかの野生動物により家きん舎周辺にあったウイルスを家きん舎内に持ち込んだ可能性、②(人・車両又は野鳥を含む野生動物が農場内にウイルスが持ち込み、)家きん舎周辺にあったウイルスを家きん舎に立ち入る人(手指、衣服又は靴底等に付着)が持ち込んだ可能性が考えられるが、特定には至らなかった。

平成30年度の秋以降に向けて

発生シーズンに入る前に、ネットの交換・補修、家きん舎周辺環境の整備(草刈、剪定、不要物の整理・整頓等)、ネズミの駆除や野生動物に対する侵入対策の強化および家きん舎専用の衣服・作業靴の準備などを実行しましょう。

(裏面：農林水産省作成の予防対策の重要ポイント)

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658
電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所

〒226-0015 横浜市緑区三保町2076
電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432



予防対策の重要ポイント

【衛生管理区域】

家きん舎



フェンス設置



車両消毒



入場者等の記録



専用の服や靴の使用



家きん舎毎の消毒



家きん舎専用の靴使用



出入りの最小限化



壁等の破損修繕



金網等の破損修繕



集卵・除糞ベルトの開口部の隙間対策



排水溝等からの侵入防止対策
(鉄格子の設置)



ねずみ対策
(トラップ設置)



家きん舎周辺の整理・整頓



家きん舎周囲の樹木の剪定



消毒の実施



消毒液の定期的交換

① 人・物・車両によるウイルスの持ち込み防止

- ・ 衛生管理区域、家きん舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底
- ・ 衛生管理区域専用の衣服、靴、家きん舎ごとの専用の靴の使用
- ・ 上記措置の記録

② 野生動物対策

- ・ 防鳥ネットの設置・修繕、壁の破損・隙間の修繕
- ・ 家きん舎周囲の清掃、整理・整頓
- ・ 上記措置の定期点検